

今井祝雄 個展 『今井祝雄 — 余白の起源』展 について

この度、osasakyoto では、「今井祝雄 - 余白の起源」展を開催致します。

この度の個展は今井祝雄にとって京都では5年ぶりの個展となり、2010年,2011年に制作された〈フレーム考〉シリーズ(未発表作品含む)を中心に、1971年に具体美術協会の展示施設「グタイミニピナコテカ」(大阪/中之島)にて開催された、具体最後の展覧会「具体美術小品展」での出展作を併せて展示致します。また会期初日には、京都国立近代美術館 主任研究員 平井章一氏とのトークと併せて、1971年モリスフォーム(大阪/東心斎橋)での発表と同様、ギャラリーの壁に直接おこなう制作実演を予定しております。その他にも未発表作品である1970年に制作したモノタイプのリトグラフ作品群6点も共に展示いたします。この度の展示は〈フレーム考〉シリーズを糸口に具体晩節当時の今井祝雄の仕事に再び焦点をあて、再考するための展覧会でもあります。

【作者解題】

大理石の粒と貝の粉末(胡粉)で練り固めた純白のメディウム。物質感をたたえるその塊を白いキャンバスの四周に置いていく…。一般的に白い画面に「図」が描かれた途端に「地」は余白となるも、ここではキャンバスが絵画の支持体でなく、余白が前景化する矩形のフレームを浮かび上がらせる。“フレーム”とは対象を切りとり際立たせる働きをするものだが、そんな視覚の構造と制度を意識しながら2010年から2011年に一連の“フレーム”シリーズを制作した。そのキャンバス作品の一部に題した「余白の起源」は、10年前に逝った友人の詩人・滝本明 (Mei Takimoto) の書名からいただき本展の表題とした。

【グタイピナコテカとグタイミニピナコテカについて】

グタイピナコテカは、中之島（大阪市北区宗是町33）にあった吉原治良所有の土蔵を改修した展示施設で、1962年（昭和37）にオープン。「ピナコテカ」とは「絵画の倉庫」を意味する言葉で、「具体」の活動に大きく関わったフランス人美術批評家のミシェル・タピエが命名。会員の個展などが定期的で開催されるなど、具体美術協会の活動拠点であっただけでなく、フォンタナやカボグロッシ、サム・フランシスら海外作家の展覧会も行われ、大阪における現代美術を紹介する場としても機能。先端の美術動向を示す場として注目度も高く、ジャスパー・ジョーンズ、ロバート・ラウシェンバーグ、イサム・ノグチなどの美術家や、音楽家のジョン・ケージ、美術批評家のクレメント・グリーンバーグなど、海外の著名な美術関係者もしばしば訪問し、活発な交流が行われました。グタイピナコテカは1970年（昭和45）4月、阪神高速道路出入口建設のため閉館し、取り壊され、翌年10月にはグタイミニピナコテカが開設、活動を継続するとともに、新グタイピナコテカの建設を計画していましたが、1972年2月、吉原治良の急死により実現しませんでした。

【会場】

ozasakyoto

京都市上京区堅門前町 414 西陣産業会館 207 (堀川今出川南西 西陣織会館 西館)

【会期】

2017年9月2日(土)～9月30日(土) 11:00 - 18:00

【休廊日】

日・月・祝 休み

【主な展示作品】

1. 〈フレーム考〉シリーズ 2010～2011年

2. 〈絵画または余白-A〉 〈同-B〉 1971年

※1971年グタイミニピナコテカで開催された具体最後の展覧会「具体美術小品展」出品作。
 具体解散時期の転換期の作品、1972年以降は写真、ビデオに移行していく。

3. モノタイプのリトグラフ6点(未発表作品) 1970年

【関連イベント】

9月2日(土) 16:00～18:00

- ・今井祝雄 & 平井章一(京都国立近代美術館 主任研究員)トーク
- ・メディアムによる制作の実演

【協力】

ARTCOURT Gallery

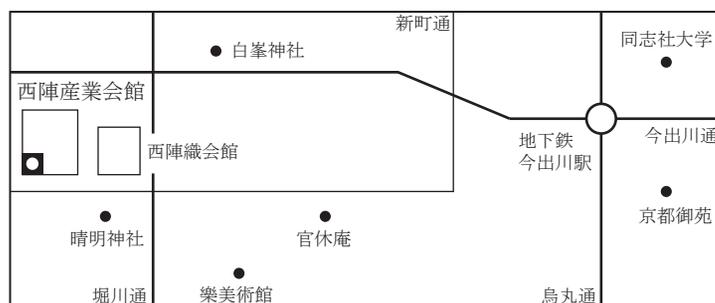
【問い合わせ】

株式会社 ART OFFICE OZASA

〒602-8216 京都市上京区堅門前町414 西陣産業会館207

電話：075-417-4041

メール：mail@artozasa.com HP：www.artozasa.com



【出展作品画像】



撮影：小橋 慶三

余白の起源—M.T.氏へ/80S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
145.5 x 145.5 cm
2011



撮影：小橋 慶三

余白の起源—M.T.氏へ/80M
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
145.5 x 89.4 cm
2011



撮影：小橋 慶三

余白の起源—M.T.氏へ/80P
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
145.5 x 97.0 cm
2011

【出展作品画像】



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/20F
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
72.7 x 60.6 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/20P
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
72.7 x 53.0 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/20M
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
72.7 x 50.0 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/8S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
45.5 x 45.5 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/6S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
41.0 x 41.0 cm
2010



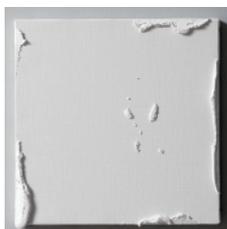
撮影: 小橋 慶三

フレーム考/4S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
33.3 x 33.3 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

フレーム考/SS
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
22.7 x 22.7 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

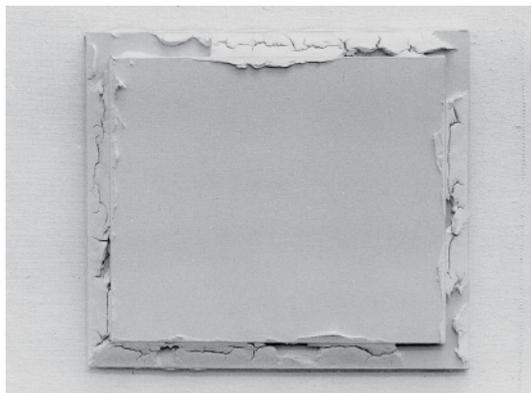
フレーム考/3S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
27.3 x 27.3 cm
2010



撮影: 小橋 慶三

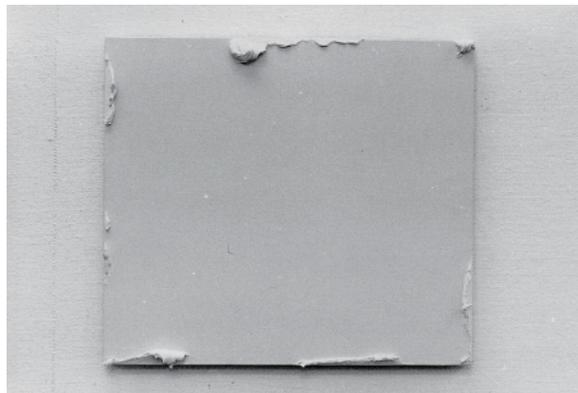
フレーム考/0S
キャンバスにアクリル、大理石粉、胡粉
18.0 x 18.0 cm
2010

【具体最後の展覧会「具体美術小品展」出品作】



絵画または余白-A
キャンバスにメディウム
46.0 x 53.5 x 5.0 cm
1971

撮影:今井祝雄



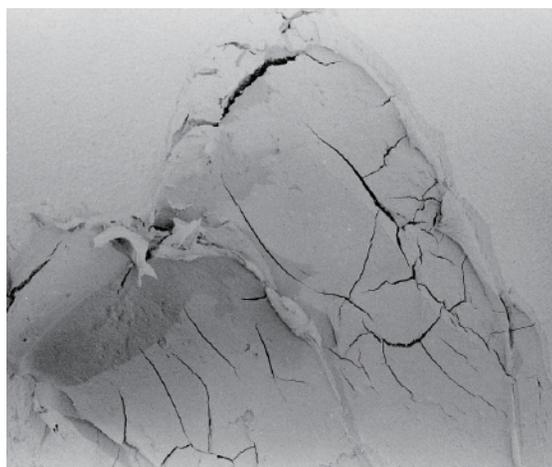
絵画または余白-B
キャンバスにメディウム
46.0 x 53.5 x 5.0 cm
1971

撮影:今井祝雄

【1971年 ギャラリー モリスフォーム (大阪/東心斎橋) エマルジョンパテによるインスタレーション】



撮影:夏谷英雄



撮影:夏谷英雄



撮影:夏谷英雄



撮影:夏谷英雄